

可燃ごみの中には

可燃ごみの中には、再資源化できるごみがたくさんあるかも？

新聞紙、古紙（チラシ、雑誌、教科書）、ダンボール、衣類など。

リサイクル率とは

1年間に排出されたごみのうち、ビン・ペットボトル・古紙類・ダンボール・プラスチック製容器包装・紙製容器包装・紙パック等の資源ごみや、粗大ごみ等から出る金属くず等が再資源化された量をごみの総重量で割った数値のことです。

令和5年度の南会津町のごみのリサイクル率（※）は、14・6％で県内59市町村中14位となり、県平均13・2％は上回っていますが、全国平均の19・5％は下回っています。



ごみのリサイクル率



ごみの処理費用

ごみ処理に係る経費と南会津町の負担金額

年度	ごみ処理	南会津町負担金
令和3年度	588,006千円	367,678千円
令和4年度	567,980千円	397,657千円
令和5年度	630,393千円	389,274千円
令和6年度	629,249千円	393,991千円
令和7年度	786,201千円	485,271千円

ごみの処分は、南会津町地方広域市町村圏組合が管理、運営している東部・西部クリーンセンターで行っています。クリーンセンターでは、南会津町、下郷町、只見町のごみ処分等を行っており、町は搬入されるごみの重量に応じて南会津町地方広域市町村圏組合へ負担金を支払っています。

施設の老朽化による修繕費の増加に加え、物価高騰の影響もあり、今後さらに負担金が増えることが予想されます。

構成3町のごみ処理に生じる負担金額（令和7年度）

町村名	搬入量	負担割合	負担金
南会津町	5,515t	約61.7％	485,271千円
下郷町	1,943t	約21.8％	170,967千円
只見町	1,477t	約16.5％	129,963千円
合計	8,935t	100.0	786,201千円

※負担割合は、前々年度のごみ搬入重量によって算出されます。



ごみの減量とリサイクル率
向上の目的と効果

ごみの減量や分別に取り組みことで、さまざまなメリットが生まれます。

- 燃えるごみが減るため、焼却時に発生する二酸化炭素が減り、地球温暖化対策につながります。
- 焼却量が減るため、クリーンセンターの修繕費用を抑えることができます。
- ごみの重量に応じて負担金を減らすことができます。

ごみの量が5％減ると

令和5年度のごみ搬入量5,515tが5％（約276t）減ったとすると、負担割合が約60.5％になり、**約960万円**の負担金を減らすことができます。

1人1日あたりにすると

276tの可燃ごみのうち約70％が生活系ごみだとすると、約200tが生活系ごみとなります。

200tを1月1日現在の南会津町の人口1人1日あたりに計算すると、**約42g**（生卵Sサイズ約1個分）です。

ごみの減量のためには、町民の皆さんの協力はもちろんですが、可燃ごみの約30％を占める事業者の方々の協力も必要不可欠です。ごみの減量化・資源化のため、小さな取組から積み重ねていきましょう。

次回は、一人ひとりができるごみ減量の方法や町のごみ減量の取組についてお知らせします。

【問合せ】 環境水道課 環境衛生係 電話 0241-62-6140

ごみの減量とリサイクル率の向上に向けて ～減量の目的と効果～

ごみの減量とリサイクル率の向上に向けて、本紙ではこれまで、ペットボトルやプラスチック製容器包装ごみの分別ポイント、ごみ収集運搬の現場の声などをご紹介してきました。

今月号では、南会津町のごみ排出量の実態や、ごみを減らすことの目的と効果についてご紹介します。



ごみの排出量

令和5年度の南会津町の1人1日あたりのごみ排出量（※）は、1,089gで、県内59市町村中50位（ワースト10位）となっています。

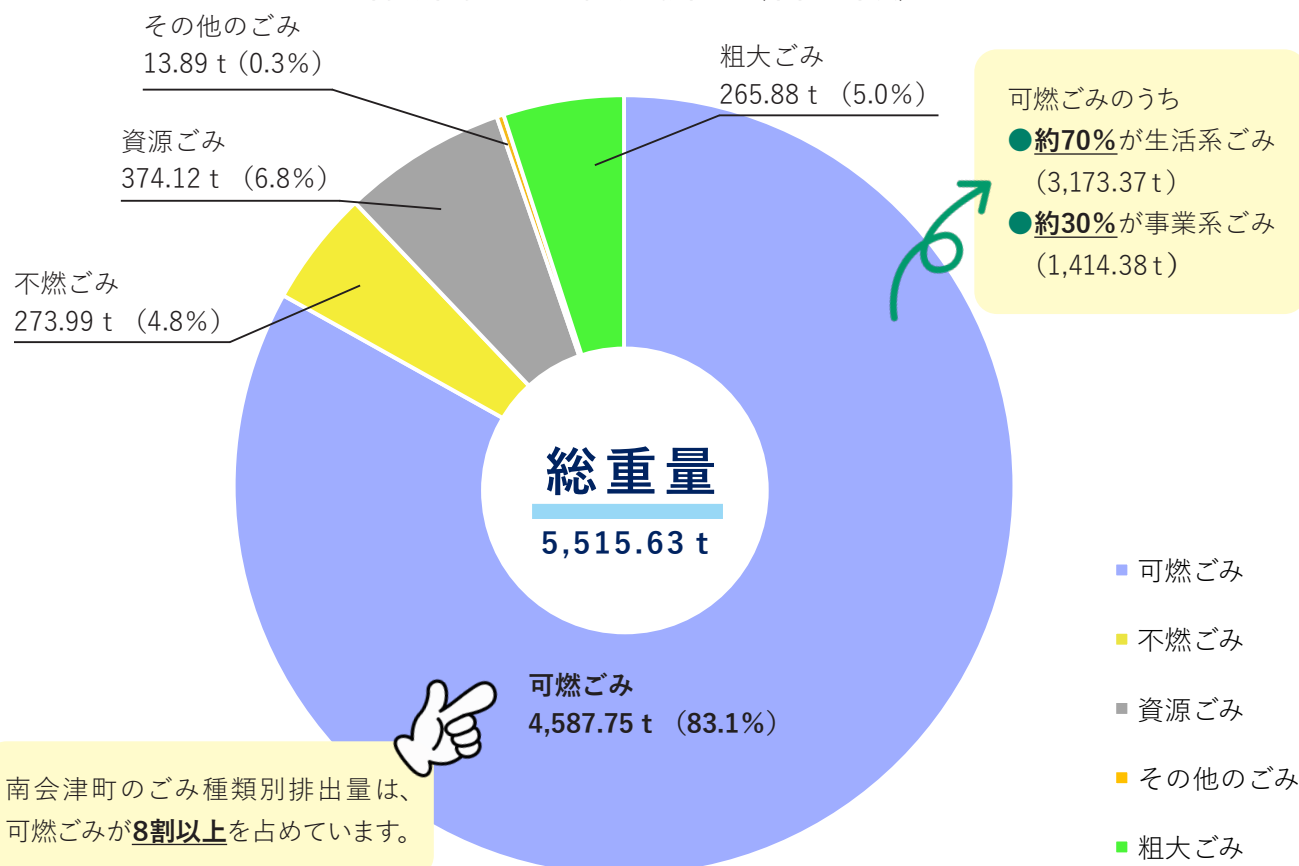
また、福島県の1人1日あたりのごみ排出量は968gで、全国の851gと比較すると117g多く、全国ワースト2位となっています。

町のごみ排出量は、人口減少により年々減少していますが、空き家の増加や解体によると思われる粗大ごみが増加傾向にあります。

1人1日あたりのごみ排出量とは

1年間に町内から排出された生活系ごみ（一般家庭から出るごみ）、事業系ごみ（会社・飲食店、事務所等、事業活動に伴って発生するごみ）の総重量を、各年度の10月1日現在の住民基本台帳人口と各年度の日数（365日）で割った数値のことです。

南会津町のごみの種類別排出量（令和5年度）



南会津町のごみ種類別排出量は、可燃ごみが**8割以上**を占めています。